

MGF は、☑神第一主義、☑キリスト中心主義、☑聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「多くの人が平和をもたらそうと努力しているが、すでに平和はもたらされている。

私たちの出る幕はもうないのである。私たちはただ神が備えた平和の中に入っていけばよいのである。」(D・L・ムーディー)

A 8月9日、「長崎原爆の日」に「平和」について考える。

質問) 聖書は戦争について何と言っていますか？

答え) たくさんの人たちが、聖書が「殺してはならない」と言っていることを信じてこの命令を戦争に適用するという間違いを犯します。しかしながら、聖書は実際「人殺しをしてはならない」(出エジプト20:13)と言っています。このヘブル語の文字通りの意味は「敵意をもってほかの人を意図的に、計画的に殺すこと」です。神さまはしばしばイスラエル人に他の国と戦争をするように命じられました(1サムエル15:3、ヨシュア4:13)。神さまはいくつもの犯罪に対して死刑を命じられました(出エジプト21:12、21:15、22:19、レビ記20:11)。ですから、神さまはどんな状況においても殺すことに反対しておられるのではなく、むしろただ、殺人に反対しておられるのです。戦争は絶対に良いことではありませんが、ときとして必要です。罪人に満ちたこの世界(ローマ3:10-18)では、戦争は避けられません。ときには、罪深い人々が罪のない人々に対してひどいことをしないようにするためには、その人々と戦争するしか方法がないこともあります。

戦争はとんでもないことです。戦争はいつでも罪の結果です(ローマ3:10-18)旧約聖書では、神さまはイスラエル人に命令しました。「ミデヤン人にイスラエル人の仇を報いよ。」(民数記31:2) 申命記20:16-17も見てください。「しかし、あなたの神、主が相続地として与えようとしておられる次の国々の民の町では、息のある者をひとりも生かしておいてはならない。すなわち、ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人は、あなたの神、主が命じられたとおり、必ず聖絶しなければならぬ。」出エジプト17:16は宣言します。「それは『主の御座の上の手』のことで、主は代々にわたってアマレクと戦われる」と言った。」1サムエル15:18も「行って、罪人アマレク人

を聖絶せよ。彼らを絶滅させるまで戦え」と言っています。ですから、あきらかに神さまがすべての戦争に反対されているわけではありません。イエスはいつでも完全に父なる神さまと同意しておられますから(ヨハネ10:30)、戦争が旧約聖書の中でだけ神さまのみこころだったと論議することはできません。神さまは変わらないのです(マラキ3:6、ヤコブ1:17)。

イエスの再臨は甚だしく暴力的になるでしょう。黙示録19:11-21は、さばきをし、戦争を起こす征服する司令官としてのキリストとの究極的な戦争を説明していますが、それは「義をもって」(11節)なのです。その戦争は血染めで(13節)血まみれになります。鳥が主に反対する人々の肉を食らいます。主は、敵に何の容赦もせず完全に征服し、彼らを「硫黄の燃えている火の池」(20節)に引き渡されるのです。

神さまが戦争を絶対に支持されないと言うのは間違いです。イエスは反戦論者ではありません。邪悪な者たちで満ちている世界で、ときにはそれ以上の悪を予防するために戦争が必要なこともあります。もし、ヒトラーが第二次世界大戦で敗北していなかったなら、さらに数百万人の人々が殺されていたことでしょう。もし、南北戦争が戦われなかったなら、さらにどれだけ長くアフリカン・アメリカンの人たちが奴隷として苦しんだことでしょう。私たちは、自分たちの信条を感情ではなく、聖書に基づかせなければならないことを忘れてはなりません(II テモテ3:16-17)。

伝道者の書3:8は「愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦うのに時があり、和睦するのに時がある」と宣言しています。罪と憎しみと邪悪に満ちた世界で(ローマ3:10-18)、戦争は避けられません。ある戦争は他の戦争よりも「公正」ですが、すべての戦争は究極的には罪の結果なのです。クリスチャンが戦争を欲するべきではありませんが、同時に神さまが自分たちの上に権威として置かれた政府に反対するべきでもありません

(ローマ13:1-4、1ペテロ2:17)。戦争のときに私たちができる最も大切なことは、私たちのリーダーに敬虔な知恵が与えられるように祈り、私たちの軍隊の安全を祈り、争いのすばやい解決を祈り、双方の犠牲者がひとりでも少ないように祈ることです。

GotQuestions.org 日本語

宗教があるから戦争が起こるのではないのですか。私は、戦争が起こる最大の原因は、宗教だと思っています。

Q. 質問

戦争はいつの時代もなくなりません。宗教があるから戦争も起こるのではないのですか。私は、戦争が起こる最大の原因は、宗教だと思っています。もしかすると、宗教を信仰する人が減れば、戦争もほとんどなくなるのではないのでしょうか。

A. 回答

これは、通常は無宗教の方や無神論の方が、強く主張されることです。その背後には、おそらく宗教を否定したいという動機があるのだと思います。いつものように3つ申し上げます。

1 番目に、確かに宗教が原因となった戦争はあります。

すぐに思い出すのは、例えば「十字軍(11~13世紀)」です。これは、「エルサレムをイスラム教徒から奪還したい」という願望から出て一連の戦いのことですね。

あるいは、ヨーロッパでは「30年戦争(17世紀)」というものがありません。これは17世紀に、今のドイツを舞台に展開された戦争です。この戦争では、カトリックとプロテスタントが争いました。終わりの方になると、むしろ政治的な要因の方が強くなっていくわけですが、最初は宗教的な戦争でした。

最近ですと、イスラム原理主義者による「同時多発テロ(9・11)」があります。これは、聖戦(ジハード)という概念のもとに、イスラム過激派の人たちが起こしたテロです。このように、宗教が原因となっている戦争は

確かにあります。

しかし 2 番目に、宗教が原因となった戦争は、ある方々が主張するほど多くはありません。興味深い百科事典が存在します。英語で「Encyclopedia of Wars」という戦争に関する全 3 巻の百科事典です。この百科事典は、歴史上起こった 1,763 件の戦争を取り上げています。分析結果を見ると、全戦争の中で「宗教的な戦争」と分類されるものは、123 件 (6.98%) です。イスラム教に関係した戦争は 66 件あり、それを除外すると、イスラム教以外の宗教的な戦争は 57 件で、たった 3.23% です。多くの戦死者を出した歴史上の大戦争は、宗教とは無関係に起こっています。あるいは、大量虐殺や大量死というものも、「無宗教の支配者の下」で起こっています。最大の犠牲者が出たのはスターリン時代で、4,267 万人死んでいます。次が毛沢東時代で、3,782 万人が死にました。第 3 がヒトラーの時代で、2,094 万人が死んでいます。以上 3 人の独裁者たちは、すべて無宗教でした。

3 番目に、戦争の第一原因は、宗教ではなく「人間の罪」です。人間の利己心、欲望が戦争の原因です。ヤコブの手紙 4 章 1~2 節にはこうあります。「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入ることができないと、争ったり、戦ったりするのです。…」(ヤコブの手紙 4: 1~2)

戦争の原因は、「人間の内側にある罪」です。もし人間が、自分を超越した方がいることを否定するなら、人間の性質と行為は、際限なく墮落してしまいます。

参考になる聖句

「内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです」(マルコの福音書 7: 21~23)

聖書 Q&A

質問) クリスマスは世界平和を促進していくべきでしょうか？

答え) 世界平和というのは美しい理想ですが、イエスが再臨する時にやっと実現されるものです(ヨハネの黙示録 21:4)。その時が来るまで、世界中が平和になることは決してありません。イエスは、その再臨の日まで「戦争のことや、戦争のうわさ」があり、「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり」るだろうと言われました(マタイの福音書 24:6-7)。世界の歴史において、どこかで誰かが他の誰かと争っていない時代は一度もありませんでした。多数の国々を巻き込んだ世界大戦であるにせよ、民族や土族の絡んだ局地的な小競り合いであるにせよ、人間は常に互いに戦ってきました。

人間がどんなに頑張ってみても世界平和を実現することは決してできないと知っていながら、私たちがそれを促進することは聖書的ではありません。寛容や共有を奨励して慈善事業に寄付をすることはクリスマンにとって確かに適切なことである一方、私たちはキリストのみが世界平和をもたらすものであることを理解して、それをイエスの名においてなすべきです。すべてのものが膝をかがめ、すべての口がイエス・キリストは主であると告白する(ピリピ人への手紙 2:10-11)までは、本物の持続的な長続きする平和は存在しません。その時まで、クリスマンは「すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求め」なければなりません。「聖くなければ、だれも主を見ることができません。」(ヘブル人への手紙 12:14)。

クリスマンとして私たちは、人類の墮落のせいで、私たち自身の行動によっては完全な平和が絶対に達成されることはないことを覚えて、争いの代わりに平和を促進していくべきです。私たちの信仰は、やはり、神と、平和の君であるイエス・キリストにあるのです。キリストが来て世界を新しくし、真の平和をもたらすまでは、世界平和は夢でしかあり続けません。私たちの最も重要な仕事は、他の人たちに彼らには救い主が必要であることを確信させることです。その救い主とは、個人と神との間に平和をもたらすことのできるお方です。「ですから、信仰によって義と認

められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています」(ローマ人への手紙 5:1)。それならば、神との平和、つまりキリストを通して神と和解させられる(コリント人への手紙 第二 5:20)ことのメッセージを世界に伝えること、これが私たちが世界平和を促進する道なのです。

GotQuestions.org 日本語

「キリスト者の関心事はこの世での生活を福音の光に照らして見ることにある。その福音によれば、人間の問題点は罪の現れである個々の出来事ではなく、むしろ罪そのものである。惨禍(悲惨な渦)を避ける最も直接的な道は、『義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。』という聖書の言葉を注視することである。世界の一人一人の男女が義に飢え渴くことが何であるかを知ってさえいれば戦争の危険はない。ここに真の平和への唯一の道がある。こうして私達は神の言葉を考察する代わりに、人間の思想や所感の表明に私達の時間と神の時間とをししばしば浪費しているのである。」(マーティン・ロイド・ジョーンズ)

「世界平和のために何ができるかですって？ 家へ帰って、あなたの家族を愛してください。」

「世界の平和は、まず家庭の平和から始まります。平和は、ほほえみから始まります。」

「自分の問題を解決するために、中絶によって母親は自分の子どもをさえ殺してしまうのです。そして、中絶によって父親は自分がこの世にもたらした子どもでありながら全く何の責任もとらないのです。そのような父親は、他の女性にも同じような苦しみを押しつける傾向があります。ですから、中絶は中絶を招くのです。中絶を認めている国は、人々に愛することを教えずに欲しいもののためなら暴力を使ってもいいと教えているようなものです。こういうわけで、愛と平和の最大の破壊者は中絶であると言えるのです。」(マザー・テレサ) Ω

<お知らせ Announcement>

★8月14日(金) BS はキャンセル。

★8月16日(日) はポットラック。

★8月19日(水) 午後キッズイベント+バーベキュー

★8月30日(日) はディアコノス・ランチ

MGF はキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会【マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)】はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「あなたがた【MGF】は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。